

名古屋工業大学

Nagoya Institute of Technology

# 後援会だより

発行年月日 2024年(令和6年)12月

編集・発行 名古屋工業大学後援会



# 目次

## CONTENTS

・学長あいさつ	1
・後援会会長あいさつ	2
・2024年度後援会役員名簿	2
・2023年度収支決算	3
・2024年度収支予算	4
・後援会による各種支援事業の報告	5
・後援会活動報告	5
・名古屋工業大学の概要（学生数、入学状況、進路状況）	6・7
・名古屋工業大学における主な取り組み（2024年度）	8・9
・第62回工大祭の報告	10
・2024年度就職・キャリア形成事業	11
・学生生活課奨学支援係から	12・13
・相談窓口	13
・後援会会則	14
・学生対策・援助基金[特別会計]の運用方針	15
・医療援助・見舞金支出基準	15
・名古屋工業大学後援会のご案内	16

## 学長あいさつ

### 後援会の皆様へ

名古屋工業大学長  
小畑 誠



平素より、後援会の皆様には本学への多大なご支援を賜り、改めて厚く御礼申し上げます。名古屋工業大学は、1905年に中部地区初の官立学校である名古屋高等工業学校を前身とし、第二次世界大戦後に新制大学として発展してまいりました。これまでに約8万人の優れた人材を社会に送り出し、わが国の社会と産業の発展に大きく貢献してきました。

本学では、これまでに幾度かの組織改革を行い、現在では学部において3つの教育課程と5つの学科を整備し、学生や社会の要請に応じています。大学院前期課程では、より高い視点から工学を学び探求できるよう、専攻の垣根を取り払い、一つの工学専攻に統合しました。また、大学院後期課程では海外の大学と共同学位プログラムを提供しております。

さらに、より先進的な学生の教育・研究活動および安全でバランスの取れた人間形成を目指し、環境整備を積極的に進めています。その一つが、3年前から県立芸術大学との連携により進めているアートフルキャンパスプロジェクトです。今年3月には、名古屋工業会からの寄付金を活用し、Nitech Hallのロビーに自動演奏機能付きのグランドピアノを設置しました。毎週月・水・金曜日の昼休みには、自動演奏の音楽でささやかながら心のリフレッシュの場を提供しています。その他にも、さまざまな基金や補助金を活用し、学生の課外活動、海外インターンシップ、海外での学会発表への支援、修学支援、キャリア支援さらには博士課程学生の支援活動にも力を入れています。

日本が主要国に先駆けて高齢化と少子化を迎える中、大学の在り方もまた変革を求められています。本学では数年前に、地方公共団体、経済界および卒業生にお声がけし、名古屋工業大学の未来像についてご意見を聞かせていただく「ステークホルダー会議」を設置いたしました。今年度からは後援会の皆様からご参加をお願いし、議論により幅を持たせるようにしていきます。

名古屋工業大学のさらなる発展のため、後援会の皆様には引き続きご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

## 後援会長あいさつ

### 後援会会員の皆様へ

名古屋工業大学後援会長

有賀 正孝



拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は名古屋工業大学後援会の活動につきまして、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、2024年度後援会定期総会を、7月25日（木）に開催いたしました。前年度決算、本年度予算等議事につきまして資料のとおりご承認を得ましたので、ここにご報告申し上げますとともに、多くの会員の皆様方のご参加にお礼申し上げます。

本後援会は、「名工大の教育に協力し、学生生活向上のために学生を援助すること」を目的に昭和36年に発足し、50年を超える歴史を重ねてまいりました。この間、会員の皆様方から拠出いただきました資金をもとに、学部学生及び院生の課外活動（部活動や工大祭など）や厚生福祉、就職活動への援助、そして学資融資や災害援助時の特別基金の積立など多彩な活動資金として運用させていただきました。それにより、学生たちの勉学や課外活動に多大な成果をあげることができたものと思っております。これもひとえに会員の皆様方のご支援の賜物であり、さらには本学教職員の皆様方による熱心なご指導及び充実した教育研究環境の整備の賜物と、敬意を表する次第です。

今後も学生へのより良い支援をめざし、進んでまいりたいと考えておりますので、ご意見等ございましたらお寄せください。皆様からのなお一層のご協力をお願いいたします。

敬具

## 2024年度 後援会役員名簿

役名	氏名	所属学科等
会長	有賀 正孝	電気・機械工学科 3年
副会長	山川由香梨	情報工学科 3年
副会長	小濱かおり	大学院博士前期課程工学専攻物理工学系プログラム 2年
常任幹事	鈴木 直哉	社会工学科 3年
//	二橋 真紀	創造工学教育課程 2年
//	日原 岳彦	副学長
//	遠藤 典子	事務局次長
//	早川 修一	学生生活課長
幹事	高橋 直子	第一部社会工学科 4年
//	伊藤 美佳	第一部情報工学科 4年
//	加藤 理恵	第一部社会工学科 4年
//	石田亜希子	生命・応用化学科 3年
//	跡見 美奈	電気・機械工学科 3年
//	伊藤 篤之	電気・機械工学科 3年
//	荒木 有美	物理工学科 2年
//	太田由美子	物理工学科 2年
//	菅井ゆかり	情報工学科 2年
//	山本 伸一	情報工学科 2年
//	奥村 直美	社会工学科 2年
//	古川 美穂	創造工学教育課程 2年
//	仙波 太郎	社会工学科 2年

役名	氏名	所属学科等
//	高山林太郎	生命・応用化学科 1年
//	澤田 寿夫	物理工学科 1年
//	犬飼 佳明	創造工学教育課程 1年
//	稲垣 大爾	大学院博士前期課程工学専攻生命・応用化学系プログラム 1年
//	吉澤 寛	大学院博士前期課程工学専攻生命・応用化学系プログラム 1年
//	蟹江麻実子	大学院博士前期課程工学専攻電気・機械工学系プログラム 1年
//	佐々木敦仁	大学院博士前期課程工学専攻電気・機械工学系プログラム 1年
//	掛布 昇英	大学院博士前期課程工学専攻情報工学系プログラム 1年
//	田中 有紀	大学院博士前期課程工学専攻創造工学プログラム 1年
//	鈴木 均	大学院博士前期課程工学専攻生命・応用化学系プログラム 2年
//	高須 多美	大学院博士前期課程工学専攻物理工学系プログラム 2年
//	角田 隆昭	大学院博士前期課程工学専攻創造工学プログラム 2年
監事	成瀬 哲也	社会工学科 2年
//	山中 利夫	学務課長
顧問	小畑 誠	学長
//	井門 康司	理事

（※太字は新役員を示す）

## 2023 年度収支決算

## 2023 年度後援会 [一般会計] 収支決算書

●総括 収入総額 24,645,738 円① 支出総額 16,331,386 円② 差引残高 8,314,352 円 (①-②)

## ●収入の部

(単位：円)

項 目	2023 年度予算	決 算	比 較 増 減	備 考
前年度繰越金	9,456,564	9,456,564	0	
会 費				
大 学 院	3,100,000	3,135,000	35,000	<2023 年度加入者 > ・大学院 627 名
高度工学教育課程	12,810,000	11,844,000	▲ 966,000	・高度工学教育課程、 創造工学教育課程 852 名
基幹工学教育課程	280,000	210,000	▲ 70,000	(うち編入 12 名)
計	16,190,000	15,189,000	▲ 1,001,000	・基幹工学教育課程 15 名
預 金 利 息	160	174	14	
収 入 計	25,646,724 ①	24,645,738	▲ 1,000,986	

## ●支出の部

運 営 費				
会 議 費	100,000	94,056	▲ 5,944	
後援会職員給与	1,100,000	1,033,844	▲ 66,156	
運 営 事 務 費	3,000,000	2,453,529	▲ 546,471	
計	4,200,000	3,581,429	▲ 618,571	
学 生 生 活 事 業 費				
学 科 交 流 会 費	1,750,000	1,313,282	▲ 436,718	
工 大 祭 援 助 費	1,200,000	1,722,325	522,325	
学 生 生 活 援 助 費	30,000	0	▲ 30,000	
課 外 活 動 援 助 費	3,700,000	3,573,700	▲ 126,300	
課 外 教 育 援 助 費	800,000	590,000	▲ 210,000	
就 職 ・ キ ャ リ ア 援 助 費	5,900,000	5,520,650	▲ 379,350	
医 療 援 助 ・ 見 舞 金	100,000	30,000	▲ 70,000	
計	13,480,000	12,749,957	▲ 730,043	
支 出 計	17,680,000	16,331,386	▲ 1,348,614	
予 備 費	7,966,724	0	7,966,724	
合 計	25,646,724 ②	16,331,386	9,315,338	

## 2023 年度学生対策・援助基金 [特別会計] 収支決算書

●総括 収入総額 8,883,183 円  
支出総額 1,072,478 円  
差引残高 7,810,705 円

## ●収入の部

(単位：円)

科 目	金 額
前年度繰越金	8,600,172
貸与者からの返済金	282,900
預 金 利 息	111
合 計	8,883,183 ①

## ●支出の部

(単位：円)

科 目	金 額
新規融資金	1,071,600
運営費(振込手数料)	878
合 計	1,072,478 ②

## 2023 年度災害救助対策特別基金 [特別会計] 収支決算書

●総括 収入総額 10,079,453 円  
支出総額 0 円  
差引残高 10,079,453 円

## ●収入の部

(単位：円)

科 目	金 額
前年度繰越金	10,079,308
預 金 利 息	145
合 計	10,079,453 ①

## ●支出の部

(単位：円)

科 目	金 額
運営費(振込手数料)	0
合 計	0 ②

# 2024 年度収支予算

## 2024 年度後援会 [一般会計] 収支予算

### ●収入の部

(単位：円)

項 目		2024 年度予算	2023 年度決算	比 較 増 減	備 考
前 年 度 繰 越 金		8,314,352	9,456,564	▲ 1,142,212	
会 費	大 学 院	3,035,000	3,135,000	▲ 100,000	2024 年度加入目標数 大学院 607 名 高度工学教育課程及び 創造工学教育課程 920 名 (編入 10 名含む) 基幹工学教育課程 20 名
	高度・創造工学 教育課程(第一部)	12,810,000	11,844,000	966,000	
	基幹工学教育 課程(第二部)	280,000	210,000	70,000	
	小 計	16,125,000	15,189,000	936,000	
預 金 利 息		170	174	▲ 4	
合 計		24,439,522	24,645,738	▲ 206,216	

### ●支出の部

運 営 費	会 議 費	100,000	94,056	5,944	総会、役員会開催に係る経費
	後援会職員給与	1,330,000	1,033,844	296,156	
	運 営 事 務 費	3,000,000	2,453,529	546,471	総会通知郵送費、後援会だより作成・ 郵送費用等
	計	4,430,000	3,581,429	848,571	
学 生 生 活 費	学 科 交 流 会 費	1,750,000	1,313,282	436,718	新入生の交流に係る経費 ※ 2025 年度入学者分 (2024 年 度入学生数を基に予算を試算)
	工大祭 援助 費	3,200,000	1,722,325	1,477,675	工大祭の企画等に係る経費援助 (簡易テント 6 帳、加重プレート代を 含む)
	学生生活 援助 費	30,000	0	30,000	ボランティア活動に係る経費
	課外活動 援助 費	3,700,000	3,573,700	126,300	課外活動に係る旅費等の援助
	課外教育 援助 費	800,000	590,000	210,000	学生表彰に係る経費等
	就職・キャリア 援助 費	3,500,000	5,520,650	▲ 2,020,650	・ TOEIC 受験料援助 ・ TOEIC 受験対策講座 ・ 就職対策講座
	医療援助・見舞金	100,000	30,000	70,000	
計	13,080,000	12,749,957	330,043		
小 計		17,510,000	16,331,386	1,178,614	
予 備 費		6,929,522	0	6,929,522	
合 計		24,439,522	16,331,386	8,108,136	

## 2024 年度学生対策・援助基金 [特別会計] 予算

### ●収入の部

(単位：円)

科 目	金 額
前 年 度 繰 越 金	7,810,705
預 金 利 息	100
合 計	7,810,805

## 2024 年度災害救助対策特別基金 [特別会計] 予算

### ●収入の部

(単位：円)

科 目	金 額
前 年 度 繰 越 金	10,079,453
預 金 利 息	150
合 計	10,079,603

## 後援会による各種支援事業の報告

### 1. 就職・キャリア形成支援

後援会では本学学生の就職及びキャリア形成支援のため、TOEIC受験料援助を行っており、2023年度は延べ1,440名の支援を行いました。TOEICは大学院入試の英語試験として使用されており、就職活動でも利用されています。

この他、名古屋工業大学では、学生向け、後援会の皆様向けに各種セミナーを実施しています。(11ページ参照)

### 2. 課外活動支援

後援会では、課外活動への援助を行っています。大会の参加費や交通費の一部援助、学外で練習を行う必要のある課外活動団体への経費の一部援助等です。

### 3. 学生表彰支援

名古屋工業大学では、優秀な学生を表彰する「学生表彰」を実施しており、後援会が支援を行っています。後援会が支援を行っているのは、課外活動における成績優秀者及び名古屋工業大学の名声を高めた学生表彰への支援です。

2023年度学生表彰では、学長表彰として、課外活動以外で特に顕著な実績を上げた2団体1個人、課外活動の全国大会で入賞した1名に、また、副学長表彰として、課外活動の地区大会等で優勝または準優勝した9名と3団体にQUOカードを贈りました。

### 4. 医療費援助

後援会では、正規の授業や課外活動中に傷害を負った学生に対する支援を行っています。

## 後援会活動報告

### 役員会

2024年7月25日午前に大学内会議室にて開催し、後援会保護者役員22名の方々にご出席いただきました。定期総会に先立ち、新役員の改選、ならびに昨年度収支決算報告及び同監査報告等を行い、役員会としての承認をいただきました。

また、役員と教員及び職員との意見交換等の時間を設け、貴重なご意見を伺える場となりました。

### 定期総会

2024年7月25日13時よりNITech Hallにて開催し、約200名の会員の方々に出席していただき、滞りなく会を終えられたことをここに御礼申し上げます。

### 学科・課程・プログラム別懇談会

定期総会后、所属する学科・課程・プログラム別に、後援会の皆様と担当教員を交えた懇談会を実施しました。普段お子様がどのような環境でどのようなことを学んでいるのかをお知りになる、よい機会になったのではないかと思います。

### 後援会の皆様向け個別相談会

懇談会と並行して、個別相談会を実施しました。「学生生活」「就職・キャリア」等の相談ブース別に、大学教職員が個々の相談に対応しました。

# 名古屋工業大学の概要（学生数、入学状況、進路状況）

①学生数（2024.5.1 現在）

**5,728人が在学中 そのうち約17%が女子**

◆工学部 計**3,997**人

◆大学院工学研究科 計**1,685**人

博士前期課程 計**1,492**人

学科名	入学定員	収容定員	現員																													
			1年次			2年次			3年次			4年次			合計																	
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計															
生命・応用化学科	20	86	19	(1)	58	(1)	24	(2)	76	(2)	88	(1)	259	(4)	150	(3)	81	(0)	211	(3)	172	(3)	87	(2)	240	(5)	255	(4)	383	(16)		
物理工学科	15	42	36	(2)	11	(0)	147	(2)	102	(6)	3	(0)	165	(8)	101	(6)	5	(0)	199	(8)	129	(1)	8	(1)	128	(2)	49	(3)	27	(1)	446	(4)
電気・機械工学科	30	80	39	(2)	25	(1)	211	(2)	179	(4)	28	(0)	292	(4)	139	(4)	22	(0)	215	(4)	216	(8)	29	(1)	345	(8)	770	(16)	102	(1)	875	(16)
情報工学科	14	50	17	(3)	22	(2)	149	(5)	140	(3)	12	(0)	152	(3)	14	(1)	148	(2)	192	(4)	19	(2)	192	(6)	69	(1)	59	(5)	659	(16)		
社会工学科	10	50	12	(3)	39	(1)	189	(4)	27	(0)	31	(0)	159	(8)	119	(1)	37	(1)	199	(2)	141	(3)	43	(2)	194	(1)	59	(2)	150	(5)	658	(17)
創造工学教育課程	10	40	35	(2)	21	(0)	169	(5)	22	(0)	21	(0)	180	(8)	77	(0)	23	(0)	199	(0)	107	(0)	15	(0)	129	(0)	35	(1)	81	(0)	432	(0)
基幹工学教育課程	20	80	16	(0)	6	(0)	22	(0)	20	(0)	2	(0)	22	(0)	16	(0)	4	(0)	20	(0)							32	(0)	12	(0)	84	(0)
計	100	3,738	796	(11)	44	(15)	3,776	(26)	796	(18)	93	(8)	788	(34)	169	(16)	64	(3)	639	(17)	1,112	(31)	312	(2)	685	(16)	3,997	(72)			3,997	(72)

注1：( ) は、3年次編入入学定員を外数で示す。  
 注2：( ) は、外国人留学生を内数で示す。  
 注3：2022年4月改組を実施。2021年度以前入学者は、工学部 第一部 所属。  
 注4：基幹工学教育課程は、夜間主・6年課程。

専攻名	入学定員	収容定員	現員																														
			1年次			2年次			合計																								
			男	女	計	男	女	計	男	女	計																						
工学専攻	686	1,382																															
生命・物質化学プログラム			61	(2)	24	(0)	85	(2)																									
ソフトウェア工学プログラム			31	(0)	13	(0)	44	(0)																									
環境セラミクスプログラム			30	(1)	3	(0)	33	(1)																									
材料機能プログラム			30	(0)	2	(0)	32	(0)																									
応用物理プログラム			36	(1)	1	(0)	37	(1)																									
電気電子プログラム			73	(3)	7	(1)	80	(4)																									
機械工学プログラム			69	(0)	9	(0)	78	(0)																									
ネットワークプログラム			25	(1)	2	(0)	27	(1)																									
知能情報プログラム			33	(3)	3	(1)	36	(4)																									
メディア情報プログラム			50	(4)	3	(0)	53	(4)																									
情報数理プログラム			2	(0)	1	(1)	3	(1)																									
建築・デザインプログラム			33	(0)	13	(0)	46	(0)																									
環境都市プログラム			24	(0)	6	(0)	30	(0)																									
経営システムプログラム			22	(1)	2	(0)	24	(1)																									
未来通信プログラム			7	(0)	0	(0)	7	(0)																									
カーボン・コミュニケーションプログラム			3	(0)	2	(0)	5	(0)																									
医学工学プログラム			6	(0)	3	(0)	9	(0)																									
創造工学プログラム			60	(0)	30	(0)	90	(0)																									
社会インベメンションプログラム			11	(0)	1	(0)	12	(0)																									
計	686	1,382	606	(16)	125	(3)	731	(19)	623	(18)	138	(14)	761	(32)	1,229	(34)	263	(17)	1,492	(51)													

注1：( ) は、大学院院期課程第3項に定める標準修業年限を1年以上2年未満とする定員を内数で示す。  
 注2：( ) は、外国人留学生を内数で示す。  
 注3：2024年4月教育プログラムの改編を実施。印は改編前のプログラムを指す。

◆工学部(第二部) 計**46**人

学科名	入学定員	収容定員	現員																														
			1年次			2年次			3年次			4年次			合計																		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計																
物質工学科*	10																																
機械工学科*	10																																
電気情報工学科*	10																																
社会開発工学科*	10																																
計	40																																

注1：2022年4月改組を実施。印は改編前の学科を指す。  
 注2：2021年4月の入学者をもって第二部学生の募集停止。

博士後期課程 計**193**人

専攻名	入学定員	収容定員	現員																														
			1年次			2年次			3年次			合計																					
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計																			
工学専攻	37	111	37	(12)	8	(2)	46	(14)	25	(3)	7	(3)	32	(6)	29	(3)	5	(5)	31	(8)	88	(18)	20	(10)	108	(28)							
共同ナノデザイン科学専攻	3	9	1	(0)	1	(0)	2	(1)	0	(0)	2	(1)	2	(0)	2	(1)	4	(1)	5	(1)	3	(1)	8	(2)									
名古屋工業大学 九州工大 国際連携情報専攻	2	6	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(1)	0	(0)	1	(1)	1	(1)	2	(2)	3	(3)	2	(2)	2	(2)	4	(4)							
名古屋工業大学 エアロスペース工学専攻	4	4	5	(3)	4	(4)	9	(7)																									
生命・応用化学専攻*																																	
物理工学専攻*																																	
電気・機械工学専攻*																																	
情報工学専攻*																																	
社会工学専攻*																																	
計	46	130	43	(15)	13	(6)	59	(21)	28	(5)	7	(3)	35	(8)	81	(15)	21	(10)	102	(25)	152	(35)	41	(19)	193	(54)							

注1：2022年4月専攻改編を実施。印は改編前の専攻を指す。  
 注2：( ) は、外国人留学生を内数で示す。

②入学状況

- 2024年度志願者倍率は、高度工学教育課程及び創造工学教育課程の前期日程 3.3倍、後期日程 8.0倍、基幹工学教育課程 1.5倍、大学院博士前期課程 1.4倍、大学院博士後期課程 1.3倍となっています。
- 2024年度入学者の場合、東海北陸地区の出身割合は、高度工学教育課程及び創造工学教育課程が 75.6%、基幹工学教育課程が 85%です。愛知県出身割合は、高度工学教育課程及び創造工学教育課程が 56.1%、基幹工学教育課程が 65%です

■ 入学者出身高校所在地

区分	募集人数	志願者数	合格者数	入学者数
工学部	6	21 (8)	7 (2)	7 (2)
(高度工学教育課程)	121	347(167)	131 (55)	131 (55)
前期	487	1,628(292)	507 (75)	500 (75)
後期	296	2,360(400)	372 (51)	298 (41)
私費	若干名	55 (13)	19 (5)	13 (3)
国費・政費	若干名	2 (1)	2 (1)	2 (1)
工学部(基幹工学教育課程)	4	12 (4)	6 (2)	6 (2)
推薦	16	18 (5)	16 (4)	16 (4)
大学院工学研究科(博士前期課程)	686	962(159)	762(129)	731(125)
大学院工学研究科(博士後期課程)	46	58 (13)	55 (13)	55 (13)
合計				

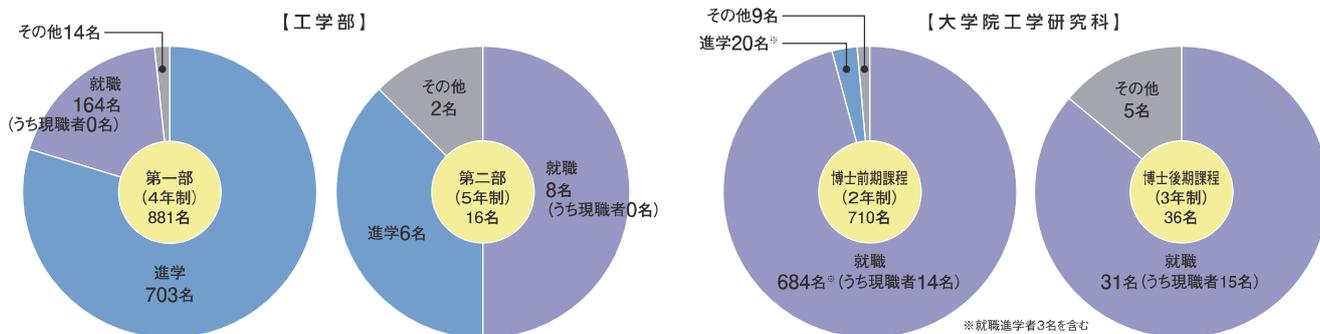
注1：「私費」は私費外国人留学生、「国費」は国費外国人留学生、「政費」は外国政府派遣留学生を示す。  
 注2：( ) は、女子を内数で示す。

地区	高度工学教育課程及び創造工学教育課程		基幹工学教育課程	
	人数	比率 (%)	人数	比率 (%)
北海道	3	0.3	0	0
東北	8	0.8	0	0
関東甲信				

③進路状況（2023年度卒業・修了者に関する進路（進学・就職）状況）

進学・就職状況

学部一部約79.8%が進学。  
就職率は学部一部99.4%、学部二部100%、博士前期99.4%、博士後期93.9%。



主な就職先

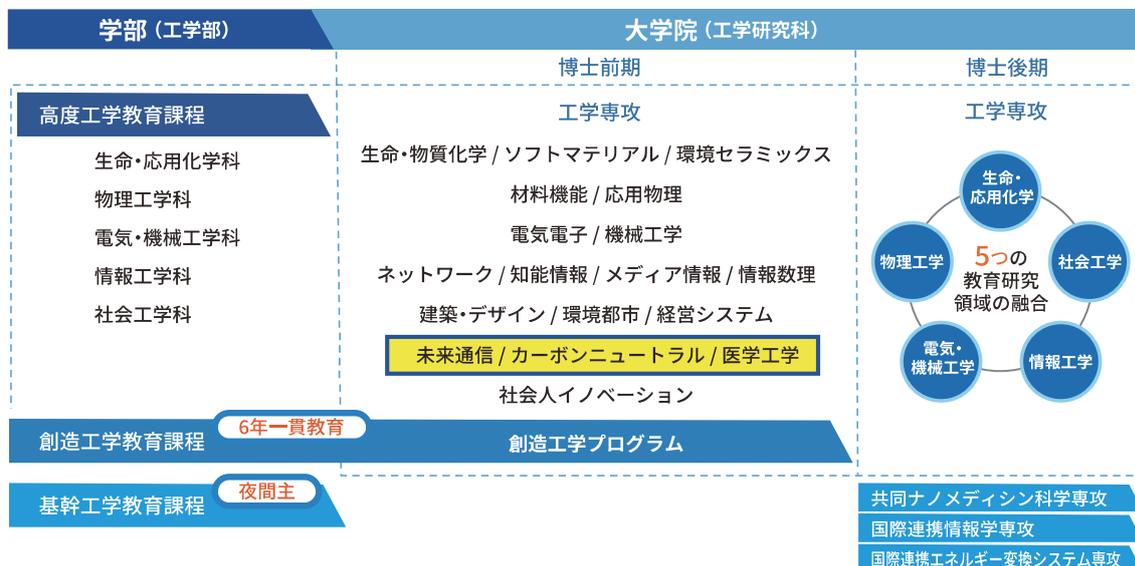
就職先	学部	大学院	合計	就職先	学部	大学院	合計	就職先	学部	大学院	合計	就職先	学部	大学院	合計
デンソー	2	59	61	三菱電機ソフトウェア	1	5	6	東海理化電機製作所	1	2	3	KDDI	0	2	2
トヨタ自動車	2	22	24	イビデン	2	3	5	東海旅客鉄道	1	2	3	小糸製作所	1	1	2
アイシン	0	21	21	住友電装	2	3	5	日産自動車	0	3	3	コクヨ	0	2	2
豊田自動織機	2	15	17	デンソーテクノ	1	4	5	ノリタケカンパニーリミテド	0	3	3	ジェイアール東海情報システム	0	2	2
ブラザー工業	0	15	15	トヨタシステムズ	0	5	5	パナソニック	0	3	3	JSR	0	2	2
中部電力パワーグリッド	3	11	14	朝日インテック	0	4	4	林テレンプ	2	1	3	JFEスチール	1	1	2
日本ガイシ	0	14	14	清水建設	1	3	4	東日本電信電話	0	3	3	ジャトコ	0	2	2
アビームシステムズ	1	11	12	豊田合成	2	2	4	ファナック	1	2	3	JAPAN TESTING LABORATORIES	2	0	2
トヨタ紡織	2	9	11	トヨタ車体	1	3	4	FUJII	2	1	3	シンフォニアテクノロジー	0	2	2
三菱電機	1	9	10	日本製鉄	0	4	4	フジインコーポレーテッド	0	3	3	スズキ	0	2	2
リンナイ	2	8	10	パナソニック エコシステムズ	1	3	4	三井化学	0	3	3	Speee	0	2	2
セイコーエプソン	3	5	8	本田技研工業	1	3	4	メニコン	0	3	3	住友金属鉱山	0	2	2
中部電力	1	7	8	三菱重工業	0	4	4	八千代エンジニアリング	0	3	3	住友電気工業	1	1	2
東邦ガス	2	6	8	LIXIL	1	3	4	LINEヤフー	0	3	3	ソニー	0	2	2
キオクシア	0	7	7	アイヴィス	1	2	3	アイカ工業	0	2	2	ダイキン工業	0	2	2
京セラ	1	6	7	愛三工業	1	2	3	愛知製鋼	0	2	2	ダイテック	2	0	2
村田製作所	0	7	7	アイシン・ソフトウェア	1	2	3	アイホン	1	1	2	大同特殊鋼	0	2	2
ヤマハ発動機	2	5	7	アウトソーシングテクノロジー	3	0	3	アドヴィックス	0	2	2	大同分析リサーチ	2	0	2
AGC	0	6	6	アクセンチュア	0	3	3	イノアックコーポレーション	1	1	2	竹本油脂	0	2	2
川崎重工業	1	5	6	アビームコンサルティング	1	2	3	NTTデータMHシステムズ	1	1	2	中部テレコミュニケーション	1	1	2
クボタ	0	6	6	伊藤建築設計事務所	1	2	3	NTTドコモ	0	2	2	中部電力ミライズ	0	2	2
住友理工	1	5	6	NTTデータ	0	3	3	NTTファシリティーズ	0	2	2	長大	0	2	2
ソフトバンク	0	6	6	大林組	0	3	3	MHIエアロスペースシステムズ	2	0	2	テルモ	0	2	2
竹中工務店	1	5	6	カワサキモーターズ	0	3	3	鹿島建設	1	1	2	デンソークリエイト	0	2	2
西日本電信電話	0	6	6	システムサーバー	1	2	3	カヤック	0	2	2	デンソーテン	1	1	2
日本特殊陶業	0	6	6	積水化学工業	0	3	3	関西電力	0	2	2	東海ソフト	2	0	2
日立製作所	1	5	6	電算システム	1	2	3	キーエンス	0	2	2	東邦ガス情報システム	0	2	2
マキタ	1	5	6	東亜合成	0	3	3	岐阜プラスチック工業	2	0	2	レゾナック	0	2	2

(単位:人)

# 名古屋工業大学における主な取り組み（2024年度）

## ～社会が求め、信頼される技術者・研究者の育成～

本学では、学部3つの教育課程（高度工学・創造工学・基幹工学）及び大学院の教育システムに加え、客観力と文化的視点を涵養する教育や倫理教育を拡充することにより、「こころ」の眼（幸福感の視点）で工学の進化を客観視できる技術者・研究者を育成します。



### 大学院博士前期課程に3つの複合系プログラムを新設

昨今、脱炭素をはじめとする社会課題はより一層複雑化・複合化しており、技術的な解決手段として、複数の分野を横断した複合的・融合的な対応が必要です。企業でもこのような社会課題に配慮した開発が求められているように、社会的にも高度工学人材を育成する必要が生じています。

本学では、特定の専門分野を深掘りして高度な専門性を身に付ける「高度工学教育課程」に加え、主たる専門分野の知識を深めながら他分野の知識も修得して複合的な課題解決力を身に付ける「創造工学教育課程」を設置して8年が経過しました。これまでの「創造工学教育課程」の成果を「高度工学教育課程」にも反映させ、複合的な視野の獲得を横展開するため「心で工学」をキーワードに、2024年度に大学院博士前期課程に複合系プログラムを新設しました。この複合系プログラムには、「未来通信プログラム」、「カーボンニュートラルプログラム」、「医学工学プログラム」の3つがあります。



井門 康司  
理事・副学長

#### ◆ 未来通信プログラム

本プログラムでは、多様で大規模なモビリティ間通信システムを開発する技術を習得します。これは、センサー情報によるビッグデー

タと人工知能・計算資源を結ぶ通信システムで、従来よりもはるかに「高速・高品質・高安全性」の機能を兼備するものです。デジタル社会を支える通信、特にその高信頼化の研究を実践するイノベーションハブの実現を目指す本学の「未来通信研究センター」と連携を図り、充実したプログラムを提供しています。

#### ◆ カーボンニュートラルプログラム

中京地域における企業からのニーズを受け、本プログラムでは、カーボンニュートラルを実現するための知識や技術、特に二酸化炭素を排出することなくいかにエネルギーを創造（創エネ）・貯蔵（蓄エネ）・利用（省エネ）するかについて、多角的な視点から技術を学びます。

#### ◆ 医学工学プログラム

本プログラムは名古屋大学大学院医学系研究科、藤田医科大学との医学工学連携の取組をベースに、私たちが健康で豊かな生活を享受できる社会を創出するためのシミュレーションや実験を行うなど、人と社会の調和に根差した技術の習得を目的としています。

2024年度は未来通信に7名、カーボンニュートラルに5名、医学工学に9名の学生が入学しました。学生が卒業するのはまだ先ですが、専門分野に関する課題はもちろんのこと、自身の専門とは多少異なる課題であっても、広い視野に立って柔軟に対応できる技術者として活躍していくことを期待しています。

# 「博士」になろう！

「博士」は国際的に通用する最上位の学位です。

博士を取得した者は工学分野を深く知る人物として信頼され、キャリアアップやビジネスチャンスの可能性を上げることにもつながります。

名古屋工業大学は、あなたの未来に投資し、あなたの挑戦を**全力でサポート**します。

もっと知りたい、もっと挑戦したい。博士後期課程がその答えです。

新しい  
支援プラン  
登場！

日本学術振興会特別研究員(DC)制度と連動した

- 全力サポートプラン(経済的支援)
- 「特定助手」呼称付与

## ▶ 経済的支援制度

### 1 日本学術振興会による特別研究員制度

大学院博士後期課程在学者で、優れた研究能力を有し、本学で研究に専念することを希望する者を「特別研究員(DC)」に採用し研究奨励金を支給する制度です。

なお、特別研究員には、科学研究費助成事業(特別研究員奨励費)の助成を受けることが可能であり、科学研究費委員会の審査を経て、毎年度最大150万円の研究費が交付されます。

	期間	経済支援
特別研究員DC1	3年間	研究奨励費 240万円/年
特別研究員DC2	2年間	研究奨励費 240万円/年

### 2 本学初! 特定助手・名工大DC制度(新設)

名古屋工業大学において、博士後期課程に進学し、日本学術振興会の特別研究員に申請した学生に経済的な支援をする、本学初の画期的な制度です。

#### 特別研究員に採用された学生への支援

- ・本学で「特定助手」という呼称を付与し、研究者としてのステータスを確立します。
- ・年間160万円の経済的な支援をします。

#### 特別研究員に不採用だった学生への支援

- ・一定以上の結果を得た学生を対象として年間40万円又は80万円の経済的な支援をします。

全力サポートプラン  
(経済的支援)

	特別研究員採用者	特別研究員不採用者	
		二次選考 or 一次選考不採用A・名工大DC	一次選考不採用B・名工大準DC
支援額	160万円/年	80万円/年	40万円/年
支援期間	特別研究員採用期間	申請の翌年度のみ	申請の翌年度のみ
雇用・呼称	非常勤研究員・特定助手	なし	なし

名古屋工業大学は、博士を志す学生を様々な経済的支援制度で全力サポート！

経済的支援制度を活用し、博士後期課程への扉を開きましょう！

### 3 次世代研究者挑戦的研究プログラム

本プログラムは、博士後期課程学生による挑戦的・融合的な研究を支援し、優秀な博士人材が様々なキャリアで活躍できるように研究力の向上や研究者としての能力の開発を促す事業です。科学技術振興機構は、研究に専念できるよう研究奨励費を支給する他、研究費やキャリア開発・育成コンテンツ費として最大74万円を配分します。

プロジェクト期間	支援期間	経済的支援
2021年度～(終期末定)	3年間(標準修業年限内)	研究奨励費 216万円/年

その他にも経済的支援制度があります。

## 第 62 回工大祭の報告

第 62 回工大祭開催にあたり、後援会から多大なご支援を賜りましたことをこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今年の工大祭は昨年度に引き続き規制なしでの開催を実施できました。コロナ禍以前の大学祭を彷彿とさせる、活気であふれた工大祭を来訪者の皆様にお見せすることができたかと思えます。

昨年度よりもたくさんの方々にご来場いただき、ステージ企画や模擬店エリアをはじめ名工大全域で賑わいが絶えませんでした。来訪者の方々が楽しんでいる姿を拝見することができ、それを目にした工大祭実行委員の表情にも微笑みが現れておりました。

これらの光景を見られたおかげで工大祭成功のために精進してきたこの一年間が報われました。2 日間という短い時間ではありましたが、名工大の魅力や前向きな意欲を大いに発進できたかと思えます。

後援会からご支援いただいた援助金は、第 62 回工大祭をより良いものとするために有意義に使わせていただきました。来年以降、情勢がどうなるかは不透明ですが、どのような状況であっても工大祭の更なる高みを目指し、決断力と団結力のある後輩たちが第 62 回を超えるものを創りあげてくれると確信しております。今後とも工大祭へのご支援のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

名古屋工業大学第 62 回工大祭実行委員会委員長

清水 謙伍



## 2024年度 就職・キャリア形成事業

就職・キャリア支援事業については、工学教育総合センターキャリアサポートオフィスと学生生活課が連携し、学生自身が納得できる進路決定の一助となるよう、就職相談の実施、企業研究セミナー等就職・キャリアに関する各種ガイダンス・セミナーの開催、インターンシップ事業、「求人票システム「名工大キャリアナビ」」による求人情報の提供等、就職・キャリア形成について、下記の事業を実施しています。

### 2024年度 就職・キャリア形成事業実施計画

#### ■キャリア形成ガイダンス実施計画

開催日（予定）	内容	実施方法
4月	前期キャリアキックオフガイダンス 就職活動全般とインターンシップ等に関する説明をします。	オンライン
5月上旬～	仕事研究&インターンシップ準備対策 自己分析・文章作成・企業研究・面接対策	moodle 配信
5月中に6日間	仕事研究&インターンシップ合同説明会 大手・有力企業及び本学学生の関心が高い企業の仕事研究会やインターンシップの説明	オンライン
9月	夏季企業研究セミナー 本学学生への採用意欲が高い企業を招へいし、学生に企業研究の機会を提供	対面
10月	後期キャリアキックオフガイダンス 【就活ミニ講座】今さら聞けないシリーズ①～③	オンライン moodle 配信
11月	業界研究セミナー 本学学生への採用意欲が高い業界・企業を招へいし、学生に業界・企業研究の機会を提供 190社以上が参加	オンラインと対面
2月予定	春季業界研究セミナー 本学学生への採用意欲が高い企業を招へいし、学生に企業研究の機会を提供	対面（予定）

2025年度も同様なガイダンス・セミナーを実施予定

上記、就職・キャリアに関する各種ガイダンス・セミナーの開催や就職相談をはじめとする各種就職支援、インターンシップ事業、進路状況の把握等の業務は、19号館1階学生センター（10番窓口）の学生生活課所属就職・キャリア支援係が行っています。

#### 1. 就職相談

専属の就職相談員を配置し、19号館1階の就職相談室で実施しています。

また、オンラインでの相談にも対応しています。

#### 2. その他の就職支援

自由応募に関する求人情報（求人票・会社説明会案内等）は「求人票システム「名工大キャリアナビ」」により閲覧可能です。また、就職に関する図書の閲覧及び貸出（図書館）を行っています。

また、学生が学内でも落ち着いてWeb面接に対応できるよう、Web面接ブースを2台設置しています。

設置したWeb面接ブース（右写真）。



## 学生生活課奨学支援係から

2020年度から、文部科学省は学部学生を対象とした「高等教育の修学支援新制度」を対象機関として認定された大学のみにて実施しています。

本学は本年度に引き続き2024年度も対象機関として認定されましたので、支援対象要件を満たす場合は、日本学生支援機構の給付型奨学金の支給と授業料の減免措置を受けることができます。

本制度の概要・支援対象要件等については、文部科学省及び日本学生支援機構のWEBページでご確認ください。

## 高等教育の修学支援新制度等について(学部学生対象)

**対象** 住民税非課税世帯・準ずる世帯の学生

**支援内容**

授業料・入学金の  
免除/減額

+

給付型奨学金の  
支給 **返済不要!**



「高等教育の修学支援」公式キャラクター  
【まねこ先生(左)とまねびーニャ(右)】

- 2023年度に申し込みなかった人、または認定を受けられなかった人でも来年4月以降に申し込みます!
- 収入が一定金額以下であれば、住民税非課税世帯でなくても支援の対象となる可能性があります。  
(世帯収入に応じた3段階の基準で支援額が決定 ※ 学業成績・学修意欲等に関する要件も満たす必要があります。)
- 特に、以下のような人も、支援対象となり得るので、制度について調べてみましょう!
  - ・貸与型奨学金(無利子・有利子)を借りている人 ⇒ 新制度なら給付型奨学金を受けられる可能性があります
  - ・今まで奨学金や授業料等の減免を受けていなかった人 ⇒ 支援の内容が大幅に充実するので確認してみましょう

くわしい情報ははこちら

文部科学省  
特設HP



「学びたい気持ちを応援します」  
(制度全体の概要を確認できます。)

高等教育の修学支援  
LINE公式アカウント



「給付奨学金シミュレーション」  
(自身が対象となるかななどを  
大まかに調べられます。)

日本学生支援機構  
進学資金シミュレーター



支援内容や手続きなどの相談窓口

- 日本学生支援機構 奨学金相談センター  
電話:0570-666-301(月~金, 9:00~20:00)  
\*土日祝日, 年末年始を除く。通話料がかかります。  
\*給付型奨学金のほか、貸与型奨学金や返還のご相談も可能です。
- 各大学・専門学校等の学生課や奨学金窓口  
申込手続きのスケジュールや個別の提出書類は、  
在学中の学校の学生課や奨学金窓口にご相談してみましょう。

## 上記申請締切後家計が急変した学生等への支援について

趣旨

上記申請締切後であっても住民税非課税世帯及びこれに準ずる世帯を対象として支援。

予期できない事由により家計が急変し、急変後の収入状況が住民税に反映される前に緊急に支援の必要がある場合には、急変後の所得の見込により要件を満たすことが確認できれば、支援対象となります。

家計を急変させる予期できない事由  
(急変事由)

生計維持者(学生の父母等)の死亡・事故・病気(による就労困難)、  
失職(※)、災害等やむを得ない事由

(※) 失業について、定年退職や正当な理由のない自己都合退職等の自発的失業は含まない。



また、従来からの日本学生支援機構が実施する貸与型奨学金も引き続き利用できます。

なお、家計急変による申請は随時申請を受付けています。給付型奨学金と貸与型奨学金で申請要件が異なります。不明な点があれば、奨学支援係まで、お問い合わせください。申請スケジュールは以下を参照してください。

この他に、様々な財団・自治体等が実施する奨学金もあります。特に、いくつかの財団が実施する奨学金は返還の必要がない給付型奨学金であり、経済的には非常に有利な条件のものがありますが、その分採用数は各財団数名程度に限られています。

本学では、入学から卒業まで安心して学生生活を送ることができるよう「学生教育研究災害傷害保険(学研災)」及び「学研災付帯賠償責任保険(学研賠)」制度を導入しています。

この保険は、大学の教育・研究活動に沿った補償制度であり、学生は全員加入することになっています。事故発生の際は、速やかに学生センター6番窓口へ届け出てください。発生時の連絡が遅れると、保険金を請求できないことがあります。補償の対象になるか迷った際も、まずは6番窓口にご相談してください。

## 申請スケジュール

種類	申請時期	備考
高等教育の修学支援新制度 (給付型奨学金+授業料減免)	年2回 (4月、9月頃)	家計急変時は随時 申請期限：急変事由発生 から3か月以内
貸与型奨学金	年2回 (4月、9月頃)	家計急変時は随時 申請期限：急変事由発生 から12か月以内

○「経済的支援」ページ

<http://www.nitech.ac.jp/campus/support/index.html>



○「奨学金・授業料免除申請受付状況」ページ

<http://www.nitech.ac.jp/campus/support/joukyo.html>



## 相談窓口

名古屋工業大学では「学生なんでも相談室」を設置し、様々な悩みをお聴きしています。

**名古屋工業大学**  
**19号館1階 学生センター**  
**052-735-5068/5599**  
**相談受付時間**  
**8:40 ~ 17:10**  
**(土・日・祝日を除く)**  
**soudan@adm.nitech.ac.jp**

学生のみならず、皆様からの御相談にも対応しています。

安心して御相談ください。



## 後援会会則

(平成25年7月31日総会承認)

第1条 本会は、名古屋工業大学後援会と称する。

第2条 本会の事務所は名古屋工業大学（以下「名工大」という。）内に置き、後援会職員が主にその業務を行う。

第3条 本会は名工大の教育に協力し、学生生活向上のために大学と連携して学生を援助することを目的とする。

第4条 本会は名工大の正規の学生の父母等（保護者）をもって会員とする。

第5条 本会に次の役員をおく。

会 長	1名
副 会 長	2名
幹 事	25名
常任幹事	5名
監 事	2名
顧 問	2名

第6条 会長、副会長、幹事及び監事の選出は、常任幹事が原案を作成し役員会の承認を受け、総会で決定する。

2 顧問は名工大学長、理事の中から1名を委嘱する。

3 常任幹事のうち3名は、名工大副学長、事務局次長及び学生生活課長を委嘱する。

4 監事のうち1名は、名工大学務課長を委嘱する。

第7条 会長は、会務を総理し本会を代表する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 幹事は、会長の委嘱を受けて会務を行う。

4 常任幹事は、会長の委嘱を受けて会務の連絡と推進にあたる。

5 監事は、会長の委嘱を受けて会計を監査する。

第8条 役員任期は1年とする。但し再任を妨げない。

第9条 定期総会は毎年1回7月末までに会長が招集し、役員承認、事業及び会計報告を行い、その他会の重要事項等を議決する。

2 臨時総会は必要に応じ会長が招集する。

3 役員会は必要あるとき会長がこれを招集し会務を行う。

第10条 本会の経費は会費をもってこれに充てる。会費は学部14,000円（第3年次編入学者は、7,000円）、大学院5,000円とし、入会時に一括してこれを納入する。

2 大学院博士前期課程での会費は、在学期間が連続している場合に限り、博士後期課程ではこれを徴収しない。

第11条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第12条 本会の総会には役員会の承認があれば、学生代表を出席させることができる。

附 則

この会則は、昭和36年6月1日から施行する。

附 則

この会則は、平成21年5月1日から施行する。

附 則

この会則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この会則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この会則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この会則は、平成25年8月1日から施行する。

## 学生対策・援助基金[特別会計]の運用方針

(平成28年8月1日定期総会決定)

名古屋工業大学後援会(以下「本会」という。)の「学生対策・援助基金」の運用については次のとおりとする。

### I 目的

「学生対策・援助基金」は、名古屋工業大学の学生で、経済的理由により学費及び留学費用の調達が困難な者に対し、学費及び留学費用相当額を融資することにより修学を援助すること及び災害等緊急時の援助を目的とする。

### II 学費及び留学費用の融資

#### 1. 融資額及び融資総額

融資額は、入学料、授業料(年額の2分の1)の額、又は留学費用とする。

留学費用は1名あたり25万円を上限とする。

融資総額は、「学生対策・援助基金」の範囲内とする。

#### 2. 融資の条件

**融資期間** 融資日から2年以内とする。ただし学籍を離れるまでに全額を返済するものとする。

**返済方法** 一括返済又は月割返済とし、月割返済は月4,000円以上とする。

**利子等** 無利息、無担保とする。  
原則として、未返済のある者に対しての融資は行わない。

学費の融資を受けた者は、その全額を直ちに名古屋工業大学財務課に入学料又は授業料として納入し納入後はその旨本会の事務担当者に連絡するものとする。留学費用の融資を受ける者は、大学が承認した留学の場合を除き、事前に留学を証明できるもの等を本会の事務担当者に提出するものとする。

### 3. 融資の申請方法

融資の申請方法は別に定める。

### 4. 融資の審査基準及び審査

融資の審査基準は、独立行政法人日本学生支援機構の奨学生推薦基準に準じる。その際、次の事項を考慮する。

ア 入学料又は授業料の免除申請者で、その許可が半額免除及び不許可であった者から順次決定する。

イ 本会会員の学生を優先させる。

具体的審査及びこれに関する事務については、名古屋工業大学事務局次長(本会常任幹事)に一任する。

### III 特別援助

会長は、災害等が発生し、緊急に救助活動が必要と認めるときは、一時立替え、又は支出することができる。

附 則

本運用方針は、昭和54年5月31日から適用する。

附 則

本運用方針は、平成21年5月1日から適用する。

附 則

本運用方針は、平成22年4月1日から適用する。

附 則

本運用方針は、平成23年4月1日から適用する。

附 則

本運用方針は、平成28年8月1日から適用する。

## 医療援助・見舞金支出基準

(平成20年7月4日総会承認)

名古屋工業大学後援会の予算項目のうち「医療援助・見舞金」の支出については、この基準を適用する。

なお、医療援助・見舞金については、本会会員の学生のみに適用する。

### 1. 医療援助

正課教育及び本学公認の正課外活動中に発生した傷病又は原因がこれに起因すると認められるものについては、次の各号による。

一、同一傷病1件の医療費のうち個人負担の合計額が2万円までの場合

全 額

二、前号の額を超える場合超えた額の2分の1を加算する。

ただし、最高5万円までとする。

三、医療援助を受けようとする者は、所定の用紙(医療援助申請書)に所要事項を記入のうえ担当教員等の承認印を受け、これに医療機関が発行する医療費の領収書を添付して、後援会あて申請する。

### 2. 見舞金

事実の認定に基づいて次の各号による。

一、死 亡 香 典 3万円

二、入 院 見舞金 5千円

附 則

この支出基準は、平成9年6月10日から適用する。

附 則(抄)

この支出基準は、平成20年7月4日から適用する。

# 名古屋工業大学後援会のご案内

## 1 概要

当会は1961年(昭和36年)から現在の形になり、名工大の教育に協力し、学生生活向上のために学生を援助することを目的とし、精力的に活動しています。本会の幅広い学生援助事業は、名工大の教育に対して大きく貢献しており、その実績は学内外から高く評価されています。これらの活動に必要な運営資金は、在学者のご家族からの会費(入会時1回のみ)によって賄われています。

## 2 主な活動内容

- 就職・キャリア形成活動への支援
- 課外活動への支援
- 工大祭等学生行事への支援
- 課外活動での成績優秀者又は大学の名声を高めた学生表彰への支援
- 入学料又は授業料免除不許可者への融資
- 遠隔地での事故救助費の援助
- 正課教育・課外活動中の疾病の医療費補助
- 見舞金の給付
- 会誌「後援会だより」の刊行
- 役員会・定期総会の開催

※会誌や、定期総会等の通知は、学生が入学後登録する父母等氏名や父母等住所を活用します。

## 3 入会の手続き

これらの活動に必要な運営資金は、会費によって賄われています。会費は、入学時一回限りです。未加入の方はいつでも加入を受付けておりますので、是非ご加入いただきますようお願い申し上げます。入会手続きは以下のとおりです。

### 【手続方法】

入学後に加入される場合は、以下の問い合わせ先にお問い合わせください。

☆**重複入金にご注意ください!**

例年、**入学時の「諸納金」と重複して、4月以降に再度振り込まれる例があります。**

### 【会費(入会・進学時各1回のみ)】

- ・学部 14,000円(第3年次編入学者 7,000円)
- ・博士前期 5,000円(学部からの進学者も加入が必要)
- ・博士後期 5,000円(博士前期時に加入した方は不要。ただし、在籍期間が連続している場合に限る)

## 4 お問い合わせ

名古屋工業大学後援会(名古屋工業大学19号館1階 学生センター4番窓口内)にお問い合わせください。

住 所：466-8555 愛知県名古屋市昭和区御器所町  
電話番号：052-735-5553 FAX 052-735-5080